

名原会ニュース

平成 21 年 8 月 22 日版

会員の方々へのお知らせ・ご案内がございましたらお寄せ下さい。
名原会ニュースに掲載いたします。ご寄稿もお待ちしております。

○ 特別寄稿	1
原子核・量子エネルギー工学教室の発展を期待する	飯田 孝夫	
7年半の御礼と近況について	有田 裕二	
○ 活動報告	3
卒業生との集い／原子カオープンスクール報告		
○ 教室の近況	4
職員の異動／5号館耐震改修完成と8号館耐震工事開始について		
○ 研究室便り	5
○ 会員の声	12
改めまして、ご挨拶	吉田 朋子	
近況と最近思うこと	巽 一巖	
退職のご挨拶と近況報告	山本 義暢	
○ 核院会便り	15
○ お知らせ	16
名古屋大学創立 70 年記念式典について／名原会総会の開催のお知らせ／会費納入のお願い／各種証明書類の請求について／名簿記載内容の変更・訂正／宛名ラベルの提供／ニュース掲載記事募集／個人情報取扱いについて		
○ 編集後記	18

特別寄稿

原子核・量子エネルギー工学教室の発展を期待する

飯田 孝夫

昭和 43 年に大学院生として研究活動の場を教室に得て以来、この 3 月で定年退職するまで、41 年間の長きに渡って教室にお世話になりました。人生の大半を教室での研究・教育活動で過ごしたことになります。この間、教室から巣立っていった多くの卒業生が現在社会で活躍されているのは、われわれの楽しみであり、誇りです。

大学に在職中は、外国人留学生を含めた多くの博士課程後期課程学生の研究指導を行いました。平成 6 年から平成 18 年までの 13 年間、名古屋大学大学院工学研究科・工学部の選任放射線取扱主任者を務めました。さらに、平成 18 年 4 月から名古屋大学教養教育院統括部兼任教員として、基礎セミナー部会の主査を務めました。これらの活動を通して、多くの得がたい経験をすることができました。研究面では、人間と環境を過度な放射線被曝から防護し、その被曝の評価と低減を目的とする放射線保健物理学に関する研究と、原子力に関連の深いエネルギー生産・需要の増大に伴う地球環境問題に関する研究を進めてきました。これら 2 つの研究テーマに対して常に新しい手法を開発し、国内外の研究機関との共同研究・研究協力を積極的に行いました。これらの研究活動を通して、中国や韓国を何度も訪問し、学術交流を重ねることができました。東アジアでの自然放射線環境の概要を明らかにできました。学術面では、日本保健物理学会の理事、副会長、企画委員長、編集委員長、日本原子力学会の保健物理・環境科学部会会長として、この分野をリードしてきました。日本学術会議放射性物質による環境汚染の予防と回復専門委員会の幹事として報告書の作成に尽力しました。これらの活動を通して、自分なりに原子力分野の健全な発展のために貢献できたと思っています。

上に述べた教育・研究・学術面での活動は名古屋大学の看板を掲げて行ってきたことです。今後は、その看板を降ろして、週 1 日の私大の非常勤の授業と放射線関係の NPO 法人の活動を行っていく予定です。少しは社会に役に立つ活動も行っていく予定です。

最後に、エネルギーは人間が地球上で生きていくには不可欠です。現在取り上げられている再生可能エネルギーの利用には限界があります。核エネルギーの有効利用は、日本人がこの世界で今後生きていくためには不可欠です。エネルギー問題が解決で切れば、食料などの他の問題は日本の技術で十分に解決可能です。教室を卒業されたあるいはされる皆さんは、教室に誇りをもって社会で活躍されることを期待します。

福井大学附属国際原子力工学研究所に移って

有田 裕二

このたび、学生・教員として21年間お世話になった名古屋大学を離れ、本年4月より福井大学に異動いたしました。不躰ながら、この場を借りてお世話になった皆様へ御礼申し上げます。また、異動の話が急でしたので、教室並びに学生さんには迷惑をかけてしまいましたこと、お詫びいたします。名古屋大学在任中は、核燃料管理施設・環境量子リサイクル研究センター・エコトピア科学研究所の立ち上げや、同位体 COE の活動、6号館地区管理区域解除、さらには様々なトラブル発生などいろいろなことを経験させていただきました。おかげさまで、肝だけは据わってきたような気がいたします。

さて、新任地の福井大学附属国際原子力工学研究所（通称 N 研究所）ですが、本年4月に発足した学内措置研究所です。原子力発電量日本有数の地として、福井県、敦賀市など自治体の期待も大きく身の引き締まる心持ちです。この研究所は、東海地方・関西・北陸の大学および研究機関が連携し、特色ある原子力研究や、幅広い原子力人材育成を目指しています。2年後の2011年4月には大学院学生受け入れ開始の予定です。現在は、学生受け入れに向けたカリキュラムの構築や、敦賀移転に向けた研究所建物デザインなどが重要業務となっています。3年後くらいには共同利用施設として皆さんに使っていただけるよう整備を進めていく予定ですので、お力添えと積極的な利用を御願います。西日本の原子力研究拠点の一つとして皆さんの役に立つような研究所を目指したいと思います。

なにぶん N 研究所は専任のスタッフも6名とまだまだそろっておらず、一人何役なのかも定かではありません。私も JAEA で行っている「ふげん」の廃止措置に係った研究部門のとりまとめを命ぜられ、ポスドク1名とともにやっていくことになっています。今後スタッフの増強にも力を入れていく予定です。これはという人がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください（自薦・他薦は問いません）。

さて、福井へ引っ越したとはいえ、名大に残してきた修士2年生3人のケアもあって、だいたい隔週で2日ずつ名大へ通っています。そんなわけで大学の皆さんとは以前と同じ頻度くらいで顔を合わせたりして、なんだか変わった気がしません。福井に来て感じたことは、移動が楽ということでしょうか。キャンパスも大きくなく5分有れば学内端から端までいけます。名大の時は1年生の講義に往復40分かかっていたのは大違いです。しかも、市内全体がほぼ平坦で、東山のようにどのルートでも必ず坂があるわけではないのでありがたいことこの上ないです。あとは、冬の雪が心配くらいです。再来年3月には福井で原子力学会を開催する予定ですのでぜひお越しください。

活動報告

1. 卒業生との集い

平成21年2月18日（水）名原会と量子エネルギー工学教室の共催で「卒業生との集い」を名古屋大学共同教育研究施設2号館8階801会議室にて開催いたしました。今回のテーマは「卒業生による技術職キャリアパスのセミナー」と題し、卒業生より学部生・大学院生に向け実体験を元にしたアドバイスやエールを送っていただきました。卒業生が14の企業・団体から20名、学部生32名（3年生12名、4年生20名）、大学院生26名（修士1年21名、修士2年4名、博士課程1名）、教職員7名の合計85名の参加があり、大変盛況であった。学生からは、他で行われる就職セミナーではなかなか聞く事のできない卒業生の生の声を聞く良い場となる一方で、卒業生側からは、「どのように今の会社を選んだか」あるいは「今なにが面白いのか」といった実体験に基づく話を直接後輩達に伝えることで、会社説明会では伝えられない自らの会社の魅力を伝える場としても大変好評であった。大学あるいは学生と産業界との交流の場として、本企画は継続して毎年冬頃開催していく予定ですので、ご興味のある卒業生の方はご連絡頂けると幸いです。

2. 原子カオープンスクール報告

平成20年8月10日（日）、毎年恒例の原子カオープンスクール「原子のちから、原子の不思議」をでんきの科学館（伏見）にて開催いたしました。本企画がスタートしてからはや15年以上たちましたが、今でも途切れることなく続いています。平成20年度からの新展示も加わり、益々充実した企画となっております。卒業生の皆様方も学生アルバイトとして参加した懐かしい思い出として記憶の片隅にある方も多いのではないかと思います。

本オープンスクールの主たる対象は小学生です。卒業生の皆様方のお子様にもちょうどぴったりの企画ではと思います。今年度も8月23日（日）に開催予定ですので、お子様と一緒にぜひとも足をお運びください。お待ちしております。

教室の近況

1. 職員の異動

- 山本 義暢 京都大学大学院工学研究科に異動（原子核工学専攻）
（平成 20 年 11 月 1 日）
- 飯田 孝夫 定年退職（名古屋大学名誉教授）
（平成 21 年 3 月 31 日）
- 吉田 朋子 エコトピア科学研究所准教授に異動
（環境システム・リサイクル科学研究部門）
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 巽 一徹 講師に昇任（エネルギー材料科学講座）
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 保坂 将人 工学研究科結晶材料工学専攻准教授に異動
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 山澤 弘実 教授に昇任（エネルギー安全工学講座）
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 有田 裕二 福井大学附属国際原子力工学研究所教授に異動
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 林 裕晃 助教に着任（アイソトープ総合センター）
（平成 21 年 4 月 1 日）
- 久木田 豊 退職（内閣府原子力安全委員会委員に任命）
（平成 21 年 4 月 15 日）
- 森泉 純 准教授に昇任（エネルギー安全工学講座）
（平成 21 年 6 月 1 日）
- 岩崎 航太 退職（トヨタ紡織(株)に転職）
（平成 21 年 6 月 30 日）

2. 5号館耐震改修完成と8号館耐震工事開始について

昨年9月より耐震改修を行っていた5号館が予定より早く6月末に完成（写真1）し、量子エネルギー工学教室の5研究グループ（山根研、瓜谷研、飯田研、井口研、曾田研）が7月中旬より8月中旬にかけて移転します。配置は図2の予定です。6号館地区には、3研究グループ（武藤研、久木田研、松井研）と実験施設が残ります。また、本年9月より、8号館が耐震改修に入り、2研究グループ（山本研、山崎研）が6号館地区に約半年間移転予定です。ご訪問の際にはご注意ください。



図1. 耐震改修を終えた5号館東側（量子エネルギー工学教室入居部分）外観



図2. 5号館における量子エネルギー工学教室研究室の配置

研究室便り

[講座名]

Tel/Fax 052-789-XXXX 担当教官 (◎:教授、○:准教授、□:講師、無印:助教)

○ [エネルギー材料工学講座] エネルギー機能材料工学グループ

4682/4691(教授)、4689/3779 ◎松井 恒雄、○柚原 淳司(核燃料管理施設)、

高効率核燃料の開発、走査トンネル顕微鏡を用いた2次元合金の創成・表面

観察、新規熱電変換材料の探索、機能性材料の結晶構造解析、同位体制御薄膜の創製などの研究を行っています（昨年度までとほぼ同様です）。

「卒業生へ・・・」

今年度は、修士：8名、4年：3名で研究活動を行っています。松井先生は今年もエコトピア科学研究所所長として激務の毎日をご過ごされており、これまで研究に御協力頂いた有田先生は、今年度から福井大学の教授としてご活躍されています。一方、助教の岩崎先生は突然の失踪からいまだに消息が途絶えたまま・・・。「僕を捜さないでください ー(∇)ー」の書き置きが残されていたものの、大変心配しておりますので心当たりのある方は是非御一報ください。

ちなみに、昨年度から行われているRI実験室のクール化は、今年度になっても一向に終わる気配を見せておりません。というわけで、松井研メンバーは長崎正雅先生の研究室（共同教育研究施設2号棟7階）、吉田朋子先生の研究室（共同教育研究施設1号棟2階）、工学部6号館地階にそれぞれ身を潜めています。居場所はバラバラな僕らですが、松井研を盛り上げるべく日夜頑張っておりますので、是非気軽にお立ち寄り下さい。

○[エネルギー材料工学講座] 極限環境エネルギー材料科学グループ

5200/5135 ◎武藤 俊介、○吉田 朋子、□巽 一蔵

前年度に新たに導入された電子顕微鏡を中心に、エネルギー材料（リチウム電池、水素貯蔵材料）、光触媒などの環境材料、鉄鋼材料等で幅広い応用研究を展開するとともに、独自のユニークな実験と解析手法の開発・改良を進めています。

「卒業生へ・・・」

今年2月には、3度目のスキー・スノーボード旅行に出かけました。今回は、八方尾根にあるコテージ風の宿に泊まり、朝晩自炊でご飯を食べました。1日目、早めに滑るのを終えた武藤先生と巽先生でキムチ鍋の食材を買いに出かけ、みんなで作っていただきました。レシピは武藤先生作で、味は非常に好評でした。自炊は面倒くさいようにも思えますが、やってみると特に一日中滑ると筋肉痛がひどい運動不足の研究者には、ゆったりと過ごせてちょうど良いようです。

今年度は、M2：4名、M1：1名、B4：3名のメンバーです。近年、人数が少ないですが、粒ぞろい少数精鋭でがんばっています。巽先生が講師に昇任、吉田先生がエコトピア科学研究所に異動され、空いた部屋はお茶のみ部屋となりました。この部屋で輪講を行うなど、日々の研究活動に幅が広がってきています。安いワイングラスを買い込んだので、今後ここで定期的に国産ワイン試飲会も行う予定です。近くにお越しの折は、是非立ち寄り模様をご覧いただきたいですし、飲みにも行きたいものです。

○ [エネルギー材料工学講座] エネルギー材料物理工学グループ

4593/3935 ◎山崎 耕造、○庄司 多津男、有本 英樹、大石鉄太郎

「地上の太陽＝核融合炉」のエネルギーを実現するために、(1)核融合炉のシステム設計と核燃焼プラズマ解析、(2)プラズマ閉じ込め配位の最適化と大型プラズマ実験解析、(3)新領域プラズマの基礎と応用、の3分野の研究に取り組んでいます。

「卒業生へ・・・」

山崎研究室は今年で5年目となりました。(旧)プラズマ研究所やプラズマ科学センターの良き伝統を継承して、量子エネルギー工学教室としての新しい核融合研究を進める様、努力しています。昨年4月から若手の大石鉄太郎助教が参画され、着実に研究が進展しています。現在、学部4年生が4名、M1が6名、M2が5名で、教員を含めて19人でプラズマ・核融合の研究を行っています。

工学部8号館の改修工事のため、夏から半年間、6号館に緊急避難を致します。22年4月からは8号館に戻って核融合の先進的な基礎研究をさらに発展させる予定です。卒業生の皆様からの後輩へのご支援・ご要望など、お気軽にお知らせ頂ければ幸いです。

○ [量子エネルギーシステム工学講座] エネルギー量子制御工学グループ

4681/3608 ◎山根 義宏、○山本 章夫

原子炉物理学の実験や理論、計算機シミュレーションを駆使し、原子炉の炉心解析技術の高精度化や次世代高燃焼度燃料の開発、未臨界度測定の研究などを行っています。

「卒業生へ・・・」

今年度は、研究室の様子が様変わりする年となりそうです。まず4月には、研究室の新たな風としてB4が4名、外部の大学からM1が1名加わりました。その結果、研究員-1名、D2-1名、M2-4名、M1-4名、B4-4名と、教授陣も含めると総勢16名(社会人Dr.を除く)にも上る、近年稀に見る大所帯となりました。加えて、研究室の居室も、慣れ親しんだ原子核第一特別実験棟を離れることとなりました。正確な時期は未定ですが、7月下旬頃に5号館4階へ引っ越す予定です。名古屋大学駅から研究室までの道のりが格段に短くなりますので、卒業生の方は是非一度お立ち寄りください。

○ [量子エネルギーシステム工学講座] エネルギーマテリアル循環工学グループ

3783/3785 ◎山本 一良、○杉山 貴彦

水-水素化学交換反応法に関する研究、原子力(核熱)を利用した熱化学プロセスによる水素製造に関する研究など、リサイクルに適したエネルギーシステムの確立を目指した研究や、置換クロマトグラフィーによるケイ素同位体分離

に関する研究など幅広いテーマを対象とし、日々精力的に研究に取り組んでいます。

「卒業生へ・・・」

今年は M2 が 2 人、M1 が 2 人、B4 が 3 人です。個性豊かな先輩が卒業された代わりに元気いっぱいの後輩が加わり、研究室の雰囲気がいぎやかになりました。山本先生は副総長に就任され、ますます忙しく学内を飛び回っておられます。そんな中、ムチ（杉山先生）と無知（学生）の間で激しい議論を交わしながら日々研究に取り組んでいます（笑）。また、今年 5 月いっぱい事務補佐員の野田里美さんが退職されました。今までお世話になりました。7 月からは 6 号館への引越しが始まり、部屋が若干ごちゃごちゃしているかもしれませんが、名古屋に立ち寄られた際には是非研究室に顔を出してください＼(^o^)/

○ [量子エネルギーシステム工学講座] 量子エネルギー核物理工学グループ

3797/3844 ◎瓜谷 章、○渡辺 賢一

中性子フルエンスの国家標準設定、新型放射線検出器および測定法の開発、レーザー分光に基づく同位体計測法の開発などを通して、放射線・中性子・同位体の利用の拡大を進めます。

「卒業生へ・・・」

今春は新しく四年生 4 名（+1 名）が加わり、M2 が 3 名、M1 が 3 名の総勢 11 名となり、先輩たちがいなくなってどこか寂しくなってしまった研究室もにぎわいをみせるようになってきました。そんな中で飲み会に、研究に・・・日々精一杯・楽しく学生生活を送っています。

また、夏ごろには新しくなった 5 号館に引っ越す予定です。いろいろ思い出のつまったこの部屋を後にするのは少しもの寂しくもありますが、新居室では部屋数も増え、食堂や駅も近くなり、さらに快適な空間になる予定です。新しい研究室でさらに充実した研究生活を送れるよう毎日を過ごしていきたいと思えます。またぜひ機会がありましたら研究室や飲み会などに来ていただき、思い出話に花を咲かせましょう。

○ [エネルギー量子物性工学講座] エネルギー量子計測工学グループ

4680/5127 ◎井口 哲夫、○河原林 順、富田 英生

光、電子、イオン、 γ (X) 線、中性子などのエネルギー量子が持つ情報を多次元的かつ精密に測定する革新的システム開発とそれらを基にした量子計測応用技術の高度化研究を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年も研究室に 4 年生が 4 名入り、M1 が他大学から 1 名加わり、社会人ドクターと合わせて学生が総勢 15 名となりました。毎月の定例飲み会やお花見など、井口研恒例の行事により四年生もすっかり研究室に溶け込んでいます。

さて、今年5号館の耐震改修工事が終わるため、夏明けに6号館から5号館へ引っ越しを行います。井口研として三年間で三回目の引っ越しを、猛暑の中汗を垂らしながら引きつった笑顔で頑張るつもりです（苦笑）。

お近くにいらした際には、是非お立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

○ [エネルギー量子物性工学講座] エネルギー物性解析工学グループ

4683/5155 ◎曾田 一雄、○八木 伸也、加藤 政彦

量子効果を利用した新しい機能材料を開発に向け、放射光やイオンビームなどの高エネルギー量子ビームを用い、ナノ粒子や表面界面ナノ構造を中心とした機能材料の原子配列・電子構造と物性や反応を研究しています。

「卒業生へ・・・」

曾田研究グループは、耐震改修が終了した5号館へ8月より再び居室を移動します。研究室へお越しの際にはご注意ください。

さて、我々のグループは、学生、教員ともども、学内イオンビーム表面解析装置を中心に種々の加速器施設へ飛び回りながら、名古屋大学が中心的役割を果たす中部シンクロトロン光施設（仮称）に向けて真空紫外線から軟X線領域のビームライン整備に力を注いでいるところです。イオンビーム表面解析装置では、学外利用やマイクロビーム測定に取り組んでいます。どちらも測定の必要がありましたら、遠慮なくご相談ください。

一方、今年1月の放射光学会では、前期大学院生が当研究室4人目となる学生発表賞に輝くことになり、研究や学業に励んでいます。先輩の皆様には、ぜひ、研究室へ来て元気な顔を見せ、後輩の活躍にエールと将来のアドバイスを送ってください。

皆様のご活躍を期待しています。

○ [エネルギー安全工学講座] エネルギー輸送工学グループ

4693/4692 ○辻 義之

原子核エネルギーシステムの安全性と経済性の向上を目指す研究をすすめています。特に近年は、原子炉の高経年化問題として配管減肉の腐食流動関連、国際核融合材料照射施設でのLi噴流の界面安定性の問題に取り組んでいます。また、省エネルギー、プラズマ不安定挙動、量子流体（超流動ヘリウム）といった、新たな知見を広める研究もおこなっています。

「卒業生へ・・・」

昨年11月に山本（義）先生が、ご出身である京大の原子核工学専攻に戻られました。今年の4月には、久木田先生が原子力安全委員会委員として内閣府に移動されました。研究室のメンバーは4年生1名、M1が2名新たに加わり、総勢9名です。学生諸君はこのごろ見違えるように（?）、授業や研究をすすめ

ています。たとえば、国際会議（6月 TSFP、9月 NURETH）、国外実験（8月）、国内実験（NIFS）、夏期実習（JAEA）、原子力学会（9月）、機械学会（11月）といった様子です。頼りない教員が1名残ったので、みなさん自力で卒論と修論を書かねばならないと悟ったのでしょうか……。でも、今年もソフトボールは強そうです。秋に中国からの留学生が1名加わる予定で、楽しみにしています。名古屋にお寄りの際には、是非、本研究室にもお立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

○ [エネルギー安全工学講座] エネルギー環境安全工学研究グループ

3781/3782 ◎山澤 弘実、○森泉 純

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について、汚染物質動態把握・予測と放射線被曝防護・低減化を中心課題として、観測、室内実験、数値実験を駆使して研究しています。

「川野研、池辺研、飯田研究室の卒業生の皆様へ……」

飯田孝夫先生のご最終講義「環境放射能研究40年」が2009年3月13日に開講され、研究室の旧職員、卒業生の皆様、教室関係者他、たくさんの方々にお集まりいただきました。同日夕刻より開催されましたご退職記念パーティーにも70名を超える旧職員・卒業生の方々にご参加いただき、たいへん盛況な宴席となりました。

4月より研究室は「山澤研」として新たにスタート致しました。7月末には5号館の5階へ引っ越すなど、大きな変化の年となります。これまでと変わりなく卒業生の皆様のご厚情を賜れば、幸いです。

○ [エコトピア科学研究所 研究部] 先端的能量源材料グループ

3607/5158 ◎長崎 正雅、○松波 紀明、吉野 正人

新エネルギー分野への応用を念頭に、量子ビームを用いた材料の創製、物性改質と分析、材料中の原子やエネルギーの移動等の研究を行っています。発光材料の電子構造の解析と開発も行っていきます。

「卒業生へ……」

今年度は、B4 3名とポスドクの渡邊さんが加わり、先生方も含め、総勢10名となりました。M2は就職活動も終え、尻に火がついた状態で実験室に引きこもり、M1は新たな研究テーマを探し求めて迷路に迷い込んでいます。また、B4は研究室にも慣れ始め、徐々にその強烈な個性を発揮し始めました。数々の伝説を残した先輩方が抜けた穴は大きいですが、良くも悪くもその後継者は育っており、相変わらず研究室には笑い声が絶えません。名古屋にお越しになる機会がありましたら、是非研究室にお立ち寄りいただき、至らない後輩にご指導もしくは差し入れをいただきたいと思っております。

○ [エコトピア科学研究所 研究部] 核燃料物質リサイクルシステムグループ
5935/5936 ◎榎田 洋一 ○澤田 佳代

私たちの研究室では、廃棄物に含まれる有用元素を精密に分離し、分離した元素を用いて新たな機能性材料を創生することで、廃棄物の発生量低減やリサイクルにつながる先進的な技術の開発を目指しています。研究の対象は原子力産業から出される使用済燃料や放射性廃棄物をはじめ、一般産業で出された触媒など広範囲の廃棄物に目を向けています。

「卒業生へ・・・」

今年度は4年生3人が加わり、総勢10人となりました。宇留賀さんが4月から1年間、アメリカで研究をされることになり、寂しさでいっぱいです。宇留賀さんが帰って来られた時に褒めて頂けるようなよい成果を出そうと、学生全員より一層頑張っています。榎田先生は忙しい仕事の合間を縫ってリハビリを頑張っておられます。先輩の皆様には機会がありましたら是非研究室に顔を出して欲しいと思います。メンバー一同お待ちしております。

○ [アイソトープ総合センター] 応用核物理グループ
2569/2567 ◎柴田 理尋 林 裕晃

未知原子核を探索し、核構造および崩壊様式の解明を行うことで、核データベースの構築を目指しています。加速器や原子炉に設置されたオンライン同位体分離装置を用いて不安定核を生成し、 β 線および γ 線を測定しています。

「卒業生へ・・・」

今年度から林さんがアイソトープ総合センターの助教に就任し、M2：1名、B4：3名のメンバーとともに研究活動を行っています。アンチコンプトン型Ge検出器を用いた測定方法や、全吸収HPGe検出器を用いた高い励起準位の測定方法を、実験とシミュレーションの両方から開発しています。

出張実験では、全吸収検出器を用いたQ値測定をJAEAのタンデム加速器で行っています。今年から京大炉も運転を再開する予定なので、実験の準備を進めています。

名大祭では30cm四方の霧箱を製作して展示しました。ランタンに使用する市販のマントルを入れたときに、 α 線の飛跡をはっきりと見ることができ、大変感激しました。ホームページに動画を載せましたので、ご覧になってください。<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/anp/>

支援組織

○ [材料量子エネルギー事務室]

3372/3225 森田 静江 (教務、量子エネ)、鈴木 千恵子 (教務、材料)、水野 康子、野村 和子 (非常勤職員)

会員の声

改めまして、ご挨拶

吉田 朋子

[エコトピア科学研究所]

核燃料物質リサイクルシステム研究グループ

昨年度まで名古屋大学のマテリアル理工専攻量子エネルギー工学分野で約 4 年半の間お世話になっておりましたが、平成 21 年 4 月 1 日付けでエコトピア科学研究所准教授として着任致しました。改めまして、ご挨拶申し上げます。私はもともと原子核工学分野の出身者ではなく、在学中は触媒化学の研究に携わっておりましたが、学位取得を機に原子核工学の分野に飛び込み、原子炉や核融合炉材料の放射線照射損傷に関する研究を始めることになりました。正直なところを言いますと、当時私は、放射線を少々怖いものと感じており、放射線を取り扱う実験にも過度に緊張しておりました。ところが、放射線とはどういうものかを理解してから、様々なエネルギー放射線を材料物性分析や固体機能発現に利用するようになり、研究の幅が格段に拡がりました。「知らないものに対する漠然とした恐怖」を抱いていた私を、京大炉・弥生炉での照射実験に放り込み、放射線取扱主任者試験を受験するよう強く勧めてくれた研究室スタッフに大変感謝しています。自らの教訓を活かし、放射線を広い意味での光として捉えた研究を遂行することで、放射線の正しい理解や魅力を社会に発信してゆきたいと思っています。

また助手として着任した当時、私は「原子核工学」という新しい分野について知識・技術を吸収しながら、毎日学生と実験の失敗や試行錯誤を繰り返していました。振り返ると、一見回り道のような試行錯誤が自ら理解することに繋がり、学生と私を共に成長させてくれたように思います。エコトピア科学研究所に着任したことを機に、学生と本当に近い距離での研究と教育ができるように、初心に立ち返って頑張りたいと思います。もう一つ心掛けたい事は、「原子核工学は複合領域学問分野です」と内外に公言するだけでなく、自らが学問分野の垣根を越えてみることです。まずは、他分野の学会で研究成果を発表する、或いは、他分野の研究者を引っ張って来る等の具体的アクションを起こして、融合型研究への展開も模索したいと思っています。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

近況と最近思うこと

巽 一徹

[エネルギー材料工学講座]

極限環境エネルギー材料科学グループ

私は、独立大学法人化前の名古屋大学工学部量子エネルギー工学分野の助手として平成 15 年 9 月に赴きました。本年度初めより工学部国際交流室での仕事と併担で武藤研究室で講師として研究・教育活動に従事しています。例えば都合 3 回の研究室の引越しなど様々なことがその間にありましたが、ほぼ 6 年が経ってしまったことに時の早さを感じています。4 年に一度開かれる電子顕微鏡の国際ワークショップに今年再び参加しましたが、自分のやっている大筋な内容は 4 年間であまり変わっていないことに気づき唖然となりました。そのショックからか、単なる時差ぼけからか、一週間の会議中、深夜眠れない日が多くありました。しかし、ポジティブに考えますと、学生時代から行ってきた計算材料科学と名古屋大学で本格的に行うようになった電子顕微鏡観察の間を行きつ戻りつしているうちに、次第に研究の本筋が太く見え始め、このはざまの領域で当分は自己の懐を深めてやるという落ち着いた意志がでてきたと自負しています。この点において、現在の環境に居させていただいているのが有難くかつ楽しくあります。

以上が研究面での私の変遷から生じた『幸せ』ですが、研究以前の間人同士のつきあいに关しましても強調して述べたいことがございます。この 5 月に私は 33 歳でようやく結婚し、しばらくぶりに自分の両親と深くやりとりをする機会がありました。月並みな言い方ですが、自分より数十年長く生きてきた親の深みを感じました。人間の真の強さは優しさにあるならば、生き馬の目を射抜くような競争社会でなんとか上昇しようとするあまり人への優しさが欠けますと人間は脆化するのかもしれませんが。無理な仕事を強られるなか、情報機器の発達に伴って人間同士の生の意思疎通が希薄になることで、特に IT 関連の職場で所謂うつ状態が増加しているという論を最近目にしました。その論が一般化できるかどうかはさておき、人間的な優しさをもって目標に邁進する集団こそ真に強靱な集団と言えましょう。研究への厳しさだけでなく仕事をする人への優しさを持ち、研究メンバーが『楽しく』研究を推進できること、現時点では残念ながら空想的なユートピアなのかもしれませんが、それに近づくことを実感できれば、これは私の大きな『幸せ』となると考えています。

退職のご挨拶と近況報告

山本 義暢
[エネルギー安全工学講座]
エネルギー輸送工学グループ

昨年10月、名古屋大学を退職し、現在京都大学原子核工学専攻特任助教としてGCOE プロジェクトに関する研究に取り組んでおります。名古屋大学に在籍した4年半の間、温かいご指導及びご協力を賜り、誠にありがとうございました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

名古屋大学での研究は1からのスタートに近い状況でしたが、研究室の久木田豊先生、辻義之先生のご理解・ご協力のおかげで、比較的順調に研究設備や共同研究先等を得ることができました。そして4年半の間に、核融合炉工学における日米共同研究(JUPITER-II 計画)、地球シミュレータ共同プロジェクト(先進・創出分野)、文部科学省原子力システム開発事業(Na 冷却高速炉・ガス巻き込み現象)、その他原研、核融合研、阪大レーザー研との共同・協力研究など数々のプロジェクト研究に従事することができました。研究設備も順調に増えていき、その騒音にはかなり悩まされましたがそれも今となってはなつかしい思い出です。

現在の私のメインプロジェクトであるGCOE プログラム「地球温暖化時代のエネルギー科学拠点」ではその名の通り、ヨーロッパ・アジア・アメリカの研究者と交流する機会が増えております。この文章も中国・ハルビン工科大学でまとめております。セミナー等も対象が博士課程かつ半数は外国人留学生ということもあり、名古屋大学の学部生を対象とした学生実験等とはかなり異なる状況を楽しんでおります。

最後になりましたが、久木田研卒業生及び名原会各位の益々のご発展及びご多幸をお祈り申し上げ、4年半の御礼のご挨拶とさせていただきます。

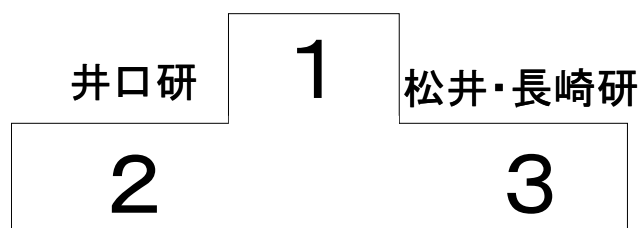
核院会便り

平成 20 年度核院会では、名大祭への参加、研修室対抗の各種スポーツ大会を行いました。名大祭では各研究室でそれぞれの研究に関連した展示を行い、多くの方に関心を持って頂けました。また季節ごとに行ったスポーツ大会では、熱戦が繰り広げられ研究活動の良い息抜きとなりました。その結果は以下のようになりました。

・フットサル大会(夏)



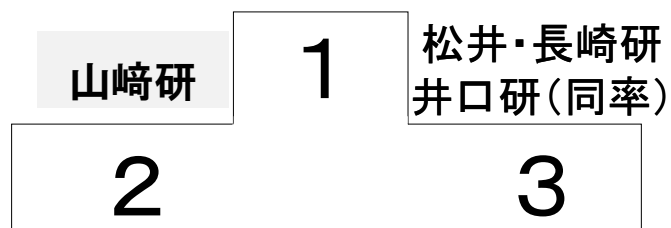
山本・榎田研



・ソフトボール大会(冬)



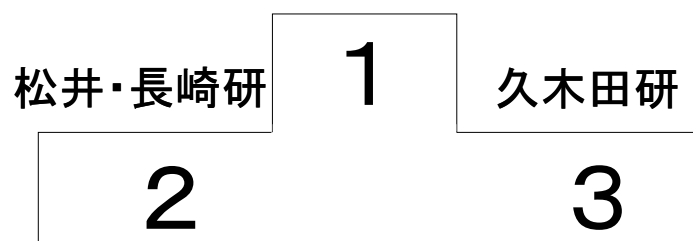
久木田研



・マラソン大会(春)



瓜谷研



お知らせ

1. 名古屋大学創立 70 年記念式典について

名古屋大学は、昭和 14 年(1939 年)に総合大学としての名古屋帝国大学が創設されて以来、平成 21 年(2009 年)で創立 70 周年を迎えました。これを記念し、平成 21 年 10 月 17 日(土)、平成 21 年 10 月 24 日(土)(ホームカミングデー)の両日に記念式典・祝賀会および記念事業(名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート)が開催されます。(http://www.nagoya-u.ac.jp/70th/参照) 本教室でも、これにあわせ平成 21 年 10 月 24 日(土)「量子エネルギー工学教室アラフォー記念シンポジウム」(http://meigenkai.nucl.nagoya-u.ac.jp/contents/090820_2.htm)を開催いたします。(詳細は同封案内をご参照下さい。)皆様、万障お繰り合わせの上、ご出席頂きますようお願い申し上げます。

2. 名原会総会の開催のお知らせ

「名古屋大学ホームカミングデー」および「量子エネルギー工学教室アラフォー記念シンポジウム」にあわせ、平成 21 年 10 月 24 日(土)に名原会総会(http://meigenkai.nucl.nagoya-u.ac.jp/contents/090820_1.htm)を開催いたします。(詳細は同封の案内をご参照下さい。)皆様、万障お繰り合わせの上、ご出席頂きますようお願い申し上げます。

3. 会費納入のお願い(重要)

卒業生各位との連絡を密にとりたいとの観点から、毎年 1,000 円ずつ会費納入をお願いいたします。

4. 各種証明書の請求について

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- ・長型 3 号(ほぼ 120×235mm)が入る返信用封筒
- ・厳封か否かの表示
- ・学科、卒業年
- ・氏名、生年月日
- ・ローマ字綴り(英文の場合)

5. 名簿記載内容の変更・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方はご連絡下

さい。葉書、FAX のほか電子メールでもお受けいたします。また、公開ホームページ (<http://meigenkai.nucl.nagoya-u.ac.jp/index.html>) にも、名簿記載内容変更フォームを開示していますので、ご利用ください。

6. 宛名ラベルの提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

7. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に1回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

8. 個人情報の取扱について

名原会会員の個人情報の取扱に関し、下記の項目をご確認下さい。

○登録の個人情報は下記の目的に利用します。

- 会員名簿への掲載（工学部・工学研究科、全学同窓会も含む）
- 本同窓会（工学部・工学研究科、全学同窓会も含む）からの各種通信文書の送付（会誌・同窓会関連行事案内等を含む）
- その他、会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

○会員名簿作成における自己情報の提供は任意です。

氏名以外で、名簿掲載を希望されない内容がございましたら、その旨、会誌「名原会ニュース」に記載されている問合せ先までご連絡下さい。尚、ご連絡のない場合は、内容に変更ないものとして名簿に掲載いたします。

○登録の個人情報は、委託先も含め機密保持には万全を尽くします。

また登録の個人情報は学校・同窓生以外の第三者へは開示いたしません。

○自己情報を照会したい場合は、会誌記載の問合せ先までご連絡下さい。

ご本人と確認できた場合に限り開示いたします。

編集後記

名古屋大学の建物も耐震工事が進み、量子エネルギー工学教室の研究室もずいぶん移動しました。「耐震工事で引っ越し、大変だなあ・・・」と他人ごとのようでしたが、とうとう私の研究室も引っ越しすることになりました。やはり想像以上に大変で、先輩方の残して下さったありがたくない物、処分を先延ばしにして見て見ぬふりをしていた物に苦労しました。幸い法令違反になりそうな事象はありませんでしたが。本件について研究室の学生の諸氏が手際よく作業してくれまして、感謝しています。実験もこれぐらいまいといいのにな（毒）。

さて、今年は諸事情ありまして名原会ニュースの発送が遅くなりました。この場をお借りして謝罪いたします。編集の私の不手際で、申し訳ありませんでした。

（杉山 貴彦）

現役員

会 長 石田 健二 (昭和 45 年卒、電力中央研究所)
副会長 中川 和道 (昭和 47 年卒、神戸大学)
 曾田 一雄 (昭和 52 年卒、名古屋大学)
幹 事 山根 義宏 (昭和 48 年修卒、名古屋大学)
 瓜谷 章 (昭和 59 年卒、名古屋大学)
 柴田 理尋 (昭和 63 年修卒、名古屋大学)
 有田 裕二 (平成元年卒、名古屋大学)
 柚原 淳司 (平成 3 年卒、名古屋大学)
 森泉 純 (平成 3 年卒、名古屋大学)
 小林 登 (平成 4 年卒、日本原子力研究開発機構)
 渡辺 将人 (平成 7 年卒、中部電力株式会社)
 杉山 貴彦 (平成 12 年博卒、名古屋大学)
 渡辺 賢一 (平成 10 年修卒、名古屋大学)
 富田 英生 (平成 18 年博卒、名古屋大学)
 林 裕晃 (平成 21 年博卒、名古屋大学)

支部長

東京 北野 照明 (昭和 48 年卒、三井造船)
中部 八田 晋 (平成 2 年卒、中部電力株式会社)
関西 占部 逸正 (昭和 47 年卒、福山大学)

名原会・名原会二ユース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部
物理工学科 (Ⅱ 系) 量子エネルギー工学コース 名原会
TEL 052-789-3786 (杉山 貴彦)
e-mail t-sugiyama@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子エネルギー工学コース事務室

TEL. 052-789-3372 (鈴木 千恵子)
052-789-3399 (森田 静江)
FAX. 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/>

名原会ホームページ <http://meigenkai.nucl.nagoya-u.ac.jp/>